

【短報】茨城県におけるハラアカコブカミキリの採集例

ハラアカコブカミキリ *Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871) は、カミキリムシ科フトカミキリ亜科ハラアカコブカミキリ族に属するシイタケ原木の重要害虫である(竹谷, 1983; 楨原, 1984; 大長光・金子, 1988)。本種の自然分布地は、日本では対馬、海外ではシベリアおよび中国東北部、朝鮮半島、済州島である(大長光・金子, 1988; 楨原, 2007)。日本本土では、宮崎県以北の九州および四国(徳島県)、本州(山口県、大阪府、埼玉県)から記録があり、いずれも対馬からの直接的侵入か国内既発生地からの二次的侵入によるものと考えられている(楨原, 1984; 楨原, 2007)。

かつて燃料用木材の産地であった対馬から多くの薪が日本各地に運ばれたため、それに伴う本種の移動が起り、とくに1950年代には、福岡市内の燃料店で本種がよく見かけられた(楨原, 1984)。一方、関東地方では最近まで埼玉県からの記録(村田, 1995)しか知られていなかった。これは関東でシイタケ栽培に使用される原木は東北地方産が主だったためと思われる。しかし、2011年3月の福島第一原発事故以降、東北地方産原木の放射能汚染リスクが高まったため、関東地方産シイタケの食品安全基準を満たすために原木の大部分が西日本から供給されるようになった。そのため、2014年には西日本のハラアカコブカミキリ発生地から千葉県に持ち込まれた原木からハラアカコブカミキリの幼虫が発見されている(福田, 2015)。

筆者らが知る限り、関東地方においては、これまでに埼玉・千葉両県以外からの本種の報告はない。最近、筆者らは以下のように茨城県内で採集された本種の標本を検査する機会に恵まれた。

1♂, 茨城県つくば市観音台, 15.V.2017, 羽鹿牧太 採集, 吉武啓保管 (図1)。



図1. 茨城県つくば市産ハラアカコブカミキリ。

本種成虫の飛翔力は弱く、秋の越冬前にはわずか400 m以内の移動に留まることが知られている(竹谷, 1983)。しかし、大分県における例のように、山間部では上昇気流に乗って山越えをすることもある(安

河内, 1978; 楨原, 1984)。本種の幼虫が材内にいる時期は初夏から秋にかけてで、老熟した幼虫は秋に蛹化し、羽化した新成虫は一旦材外へ脱出した後、土中を含むさまざまな場所で越冬する。したがって、春から初夏に野外で見られる個体はすべて越冬後の成虫ということになる。今回の採集例については、検視標本が得られた時期が5月中旬なので、2016年秋に出現し、越冬した成虫であることは間違いない。つくば市観音台地区が全くの平地であること考えると、採集地付近のシイタケ栽培地からやってきた個体である可能性が高い。本種はクヌギ原木であれば、直径5 cm以下の小径木、コナラ・アベマキ原木であれば10 cm以下の中径木に産卵する(大長光, 1994)。原木内に本種の幼虫がいない冬季以外の原木の移動は禁じられているが、おそらく深く考えずに原木を移動した人がいたのであろう。

末筆ながら、本文をまとめるにあたり、貴重な標本をご恵与下さった農研機構の羽鹿牧太氏と文献等を教示いただいた森林総合研究所の北島博氏に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 福田一成, 2015. 千葉県におけるハラアカコブカミキリの発生初確認. 森林防疫, 64(2): 3-8.
 楨原 寛, 1984. 解説 樹木の主要カミキリムシ(11)シイタケほだ木のカミキリ類. 森林防疫, 33(9): 13-14.
 楨原 寛, 2007. ハラアカコブカミキリ族. 大林延夫・新里達也編, 日本産カミキリムシ, p. 608. 東海大出版会, 秦野市.
 村田元彦, 1995. ハラアカコブカミキリの埼玉県における採集記録. 月刊むし, (298): 27.
 大長光 純, 1994. ハラアカコブカミキリ. 小林富士雄・竹谷昭彦編, 森林昆虫, pp. 529-531. 養賢堂, 東京.
 大長光 純・金子周平, 1988. 森林害虫各論シリーズ(34)キノコ害虫(1)ハラアカコブカミキリ. 林業と薬剤, (106): 1-12.
 竹谷昭彦, 1983. シイタケほだ木の害虫 ハラアカコブカミキリの生態と被害. 今月の農薬, 27(6): 2-7.
 安河内養真, 1978. 九重, 大船山でベニフカミキリを採集. 北九州の昆虫, 25(1): 18.

(吉武 啓 305-8604 つくば市観音台3-1-3
 国立研究開発法人農研機構 農業環境変動研究センター)
 (楨原 寛 298-0002 いすみ市日在 2033-5)